

心に残る文化財子ども塾 奥出雲町立三沢小学校

1. 活動の概要

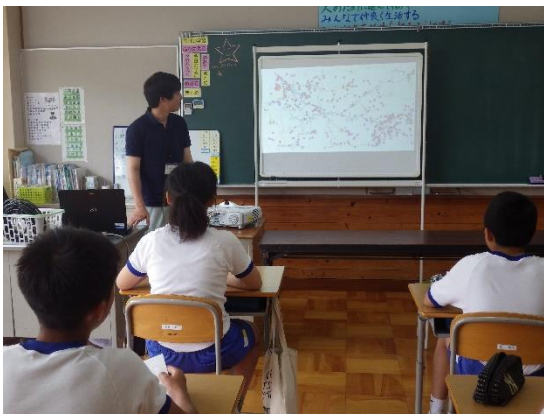
6月19日(火)、奥出雲町立三沢小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。はじめに縄文・弥生時代のこと、三沢小学校周辺の遺跡について、県埋蔵文化財調査センターの職員から、話を聞きました。三沢小学校周辺には、たくさんの古墳や遺跡があること、その古墳や遺跡がどのようなものか学習しました。

次に、体験活動にあわせて、土器や勾玉について学習しました。縄文土器と弥生土器の違いなどについて、写真や実際の出土遺物の見学の中で土器についての理解をさらに深めました。

その後、「土器づくり」、「勾玉づくり」を行いました。「土器づくり」では、粘土を輪積みにし、思い思いの形を作っていました。また、文様などそれぞれで工夫して、土器を仕上げました。「勾玉づくり」では、ヤスリ等を使い、勾玉の成形を行いました。子どもに当時の人々の技術力の高さについて感じてもらうことができ、有意義な体験活動になりました。

2. 活動の様子

1)奥出雲町の縄文・弥生時代について知る



三沢小学校周辺にはたくさんの遺跡や古墳があります。

2)古代体験活動～土器・勾玉づくり～



土器に文様をつけてみよう。



皆さん、勾玉づくりに一生懸命です。

3. 子ども塾を終えて

1)児童の皆さんから…

- ・奥出雲町にも古墳や遺跡があることが一番心に残りました。
- ・勾玉づくりでけずるのが楽しかった。
- ・土器や勾玉づくりで昔の人の苦勞が伝わった。
- ・昔の人たちの大変さ。工夫をしてつくること。

2)担任の先生から…

- ・学校の近くの遺跡を知ることができた。
- ・実際に土器を見たり触ったりできた。
- ・実際に見て触れる資料(出土品など)がもつとあるといいと思った。

3)埋文センターから

縄文・弥生時代の説明では、写真などの資料を見たり、児童の皆さんに考えてもらう場面を設けたことで、興味をもって、話を聞いてもらうことができました。また、実際の出土遺物を見ることで話の中で出てきた土器の特徴などをその場で確認することができ、理解が深まったように感じます。

体験活動を「土器づくり」、「勾玉づくり」の 2 つ実施したことで、時間的な面で制約がありましたが、児童の皆さんは、一生懸命作業に取り組んでくれました。先生方のご協力もあり、思い思いの形で文様をつけた土器をつくることができました。「土器づくり」、「勾玉づくり」ともに、児童の皆さんから「難しい、当時の人たちはすごい」などと作業中に声を聴くことができ、当時の人々の技術力の高さや文化について、実感してもらうことができたと感じました。